

<議事録>

第16回「東日本大震災 子ども・学校支援チーム」会議（案）

日時：2015年3月14日（土）16:30-18:30

場所：学校心理士認定運営機構事務局

出席者：9名

《敬称略》石隈（会長）・大野（常幹）・我妻（北東北）・藤岡（常幹，京都）・山口（常幹，茨城）・
西山（福岡）・瀧野（大阪）・氏家（宮城）・都丸（書記）

資料：資料1-14

※巻末：資料名一覧参照

《会議概要》

《前回の議事録の確認》

I. 2017 ISPA（国際学校心理学会）Japan の提案

1. 2017年度 ISPAの日本大会について
2. 学校心理士会2016年度大会について

II. 現況報告，等

1. 岩手県（北東北支部：我妻氏）
2. 宮城県（宮城支部：氏家氏）
3. 茨城県（茨城支部：山口氏）
4. 福島県（石隈会長）
5. 被災地でのコンサルテーション活動（瀧野氏）
6. 被災地の報告全体を受けて：学校心理士の基本的な支援の在り方，等

III. まとめ

1. 今後の活動に向けてのさまざまな提案：7つの提案と1つの留意点
2. 今後の活動計画：「東日本大震災 子ども・学校支援チーム」の今後の予定

《巻末：資料名一覧》

◀前回の議事録の確認▶

※資料1参照

I. 2017 ISPA (国際学校心理学会) Japan の提案

※資料2参照

1. 2017年度 ISPAの日本大会について

ISPAからの正式な提案として…ISPAの国際大会(例年300人前後の規模)を日本で!

↓

※参考:今年度…ブラジル, 来年度…オランダ

【石限会長の考え】

(学校心理士認定運営機構及び幹事会の決定を経て)開催の方向

背景:NASP及びISPAからこれまでに受けた震災支援への恩返しとして⇒お礼と報告・発信

日本の学校心理学は,世界の中で知られていない存在⇒大会を機に交流を活発化させたい

(※詳細は,資料2「3 意義」,「4 組織と責任」,「5 時期と場所」,「6 プログラムの概要」参照)

準備委員会候補:石限会長,西山氏,渡辺弥生氏(所属:法政大学),飯田順子氏(所属:筑波大学)

時期:6~7月(※会場は未定)

会費:4~5万円程度

2. 学校心理士会2016年度大会について

石限会長からの提案:被災地の何県かで協力して開催し,今年度の支援チームの活動を紹介したい

↓

提案を受けて:北東北支部長が我妻氏から藤井氏へと引き継がれたため,後日要相談

II. 現況報告,等

1. 岩手県(北東北支部:我妻氏)

(1) 被災地でのコンサルテーション活動,等について

①昨年度の実施報告

北東北支部新入会員(被災地勤務)5名に対し,支援のニーズを問い合わせたところ…

1名よりコンサルテーションの希望あり(宮古市内の中学校に勤務している教員)

2014年7月28日 コンサルテーションの実施(2事例)

参加者:教育相談担当者,生徒指導担当者,担任,養護教諭,他5~6人

※年度末~正月に第2回を予定していたが,予定が合わなかった。しかし今後,当該会員が盛岡市に来る(2015年3月21日)際に,我妻氏の研究室でコンサルテーションを実施する予定。

②今年度の実施計画

北東北支部新入会員(被災地勤務)6名に対し,支援のニーズを問い合わせたところ

1名よりコンサルテーションの希望,1名より研修依頼の希望あり

・コンサル希望者(大船渡市内の高等学校に勤務している教員で,教育センター研修経験者)

※教育センター研修経験者は,学校心理士資格を希望する雰囲気があるところ

2015年2月27日 雪道の為,電車で学校現場へ。14時~17時(今後のコンサル計画+3事例)

事例の内容…発達障害,不登校,精神疾患

⇒「被災後 4 年目の事例の特徴」

純粋な PTSD はほとんど見られず、震災に伴う生活困難（仮設住宅や家族関係、親の雇用に関わる問題）により、もともと抱えている問題が顕在化したケースが大部分

- ・研修依頼者（陸前高田市での巡回カウンセラー。元福島県立大学の精神科の教員からコンサルテーションを個人的に受けている）

現場の教員を対象とした研修の要望（例：発達障害や不登校の基礎について）

※本件に関しては、10 月以降に具体化の予定

- ・その他

※三陸（久慈よりも北）の地域の特徴と例…親に対し、勉学の大切さについての話をしたい
獵師町の為、高校を出たら働き手として親の漁を早朝から手伝う。その結果、午前中に居眠り多発⇒背景を知らない校長が保護者に規則正しい生活を促したところ、保護者が反発。

なお、岩手県の漁は、他の被災県よりも打撃は少ないとのこと。

※経済力が貧困（秋田、青森、岩手、沖縄間で、県民の所得率全国最下位を争っている）

⇒こういう状況の中で、学校や学習の価値を伝えるということはチャレンジである。

異文化系的アプローチの知見が役に立つだろう。

③今後について

我妻氏は、4 月～9 月まで岩手を不在にするため、荻間澤勇人氏（北東北支部 SV の 1 人。2015 年度 4 月より会津大学に着任。週に 2 日の勤務）に不在時の交代を依頼済。

（2）報告を受けて：中・長期支援の展開と地域の抱える問題

①石隈会長より

コンサルテーション活動等の話を踏まえると、被災地への支援が中・長期的支援に移行していることが分かる。

②藤岡氏より

学校統廃合について…文部科学省の基準を適応すると、岩手県では 38%の小学校がなくなることに（三陸から内陸への人口流出が進んでいる⇒町の中心に人を集め「町を作る」という考えがある）

2. 宮城県（宮城支部：氏家氏）

（1）宮城の状況

①地域の格差について

※資料 3 参照

仙台では、マンションの建設ラッシュ。移り住む人が多い。

一方で、宮城県山元町（太平洋沿岸地区）では子どもが少ないというより“いない”。

⇒被害地区は、「高齢化」＋「大規模な人口流出（統廃合、住民が学校運営）」の問題に直面。

②震災を踏まえたポジティブな話として

※資料 4、5 参照

被災による教訓を活かそうとする動き（良い意味での震災の風化と良い意味での教訓化）

本日、仙台では国連防災世界会議（3 万人規模）

※国連防災世界会議では 15 日に、ケア宮城も含めた子ども関係の発表がある。ただし、教育や子どもに関する発表は、相対的にはそれほど大きくない。

⇒ポジティブな側面・良い方向への過剰な注目⇒バランスが崩れている印象を受ける…

- ・震災に関わる補償金で安定した生活
- ・新しいコミュニティ化とバラバラの人々
- ・仮設住宅は、もう2年継続

③子ども・学校の状態

宮城県…2年続けて全国不登校ワースト1

沿岸部に勤務していた教員は、そろそろこの春に異動する見通し

④宮城鎮魂の日

3月11日は、命日ということで一部の県立高校は休校となった。

(2) 報告を受けて：住居・コミュニティに関わる問題

震災後…バラバラに仮設に入居＝コミュニティの「鎖がきれた」（我妻氏）

支援者＝よそ者の大量流入⇒地元とよそ者の区別がつかず⇒知らない人にとりあえず警戒
大規模な仮設住宅ほど、いろいろな地区の人たちがバラバラに入居（氏家氏）

↓

新たなコミュニティ形成に至らない

さらに…

復興住宅へ⇒地域がバラバラになり、再度コミュニティが消失⇒孤独死が問題化（藤岡氏）

現在でもなお…

いまだに学校の校庭に仮設住宅⇒子どもたちからの不満（藤岡氏）

大槌町…仮設住宅団地48か所（1625世帯、3623人）⇒町の人口の1/4が仮設（我妻氏）

今後…

沿岸部のかさ上げ工事⇒今後何年間かけて住宅を整備。その間に若い世代は内陸へ
結果的に今後もますます人口流出が進む見通し（我妻氏）

3. 茨城県（茨城支部：山口氏）

(1) 茨城県の現状

①茨城県に避難した福島県からの被災者

※資料6～9参照

朝日新聞の茨城県地方版の記事を踏まえて…

つくば市で公務員住宅に居住している福島県からの避難者（来年度3月まで家賃無償）3タイプ
（タイプ1：機関困難区域から、タイプ2：居住制限区域から、タイプ3：避難指示解除準備区域から）
⇒補償金の額がそれぞれ異なる！タイプ1は補償金により家を建てるのが可能な一方、タイプ3
の人は補償金をもらえず、非常に貧困。

②いじめ解消サポーターの活動から

液状化の被害を受けた地区にある中学校で子どもや保護者と面接をして…

学校の周囲は、道路や傾いた住居が未修繕（背景：費用がない）⇒いじめ増加の一因ではないか？

☆震災後の国の対策が、未だになされていない

③適応指導教室での面談活動

行方市の適応指導教室で、年に5回の面談活動⇒ある保護者より…風評により、農作物が売れない
漁場汚染（※ここ最近も、福島原発からの汚染水垂れ流しが問題化）により、魚が売れない

(8億4000万⇒3億1千万へ シラスは1000～1500円⇒700～800円へ)

⇒経済的に苦しい生活を強いられている

一方…東電は昨年より茨城地区農業関係への補助金を打ち切った←2, 3日前に裁判に訴えられる
漁業関係への補助金は継続しているが, 来年度には打ち切られるのではないかと噂あり

(2) 報告を受けて：原発問題と貧困

震災に係って茨城県が抱える問題は, 原発の問題に関わる被害⇒貧困と格差

4. 福島県 (石隈会長)

(1) 子どもたちの状況：不登校に関して

不登校の問題化:もともと不登校の子ども数が全国的に少なかったが, ここ2～3年増加(特に中学)
⇒文科省派遣のSCが各学校に来ているが, 今後減少することも懸念される
⇒現在, 各学校の教育相談体制の整備が求められている

(2) 教師の状況：燃え尽きに関して

教員へのアンケート(弱音を吐かない, “大丈夫”)を踏まえた, 中・長期での心配事項
⇒今年, 関連する調査を実施予定

(3) ヤング・アメリカンズの活動より

※石隈会長が筑波大学の方で関わっている活動

概要:アメリカ発祥。40人ほどのキャストが, 世界中を回り, 3日間(金～日)のプログラムを組み, リハーサル+ショーを開催する。国からも補助を受け, 震災後は被災地を回って活動している。女子高校生を対象としたキャリア支援の活動も行っている。

アンケートを実施した結果…3日間であっても, 「表現する」ことによる達成感・前向きな感情生起
「表現する」ことを抑えている被災地の子どもたちが表現できると, その効果はとて大きい!

5. 被災地でのコンサルテーション活動 (瀧野氏)

(1) 今年度の活動

- ・ 原発のそばの大熊町の子どもたちの同窓会への参加 (福島大学主催)
- ・ 9月 福島大学の学生への研修 (大阪で開催)
- ・ 10月 久慈で研修。その後, 山田町の小学校で研修。
- ・ 1月 山田町の小学校を再訪問。花巻教育センターで学校危機対応, 自殺予防, 自殺後の対応に関する1日半研修 (費用は大阪教育大学から)。
- ・ 3月 岩手県内の高校訪問 ⇒ 3月11日は入試の日であったため, 誰も学校に来ていない
(※講演会の紹介)「原子力災害の心理的影響を考える国際セミナー—チェルノブイリ事故の教訓を学ぶ」 **※資料10参照**
- ・ 他, 石巻市で亡くなった子のいる家庭を訪問している心のサポートチームのケース会議に出席
⇒来年度も継続して参加予定 (年に5回)

(2) 報告を受けて

石隈氏: 瀧野先生の活動=現場に赴いて, ニーズに合わせコンサルテーション⇒事例性・倫理性

瀧野氏: ニーズを見つけることがとても難しい

⇒久慈で行ったやり方は、一つのアプローチ法

他に、御用聞きのように定期的に訪問し、学校の流れを把握してのアプローチ法も
※地域・地方によって、学校の流れ・スケジュールが大きく異なる。

(例: 移動の内示…大阪は3月20日、岩手は3月初旬、宮城県は県と仙台市の移動が別立て)

6. 被災地の報告全体を受けて

(1) 学校心理士の基本的な支援の在り方について (大野氏) : 危機意識の共有化と継続化

2014年12月23日 広島支部での講和+被災した学校でのコンサルテーション経験より

↓

コンサルに広島大学または広島県立大学の教員がコンサルの場に加わったほうが良いと考えたが…
コンサルを依頼した教師は、情報が外部に漏れることを懸念し、加わることを拒否

↓

背景: 危機意識の消失 (“コンサルを行ったこと自体が当該学校で問題化するのではないか?”)

↓ ※風化というよりも、「できるだけ忘れたい」という雰囲気がある学校内にあるのではないかと

課題: 危機意識の共有化と継続化 (含、仲間作り)

- ・「来年の記念日にはどう対応するか?」→支援チームの翻訳・作成した資料を渡した
- ・当該学校の教職員の総分け
- ・「明日から/1年後までに/転勤までにやること」について具体的に相談

(2) 学校心理士の基本的な支援の在り方について (大野氏) : 基本的な考え方

2015年3月5日 クローズアップ現代: 「子どもたちの心が折れている 震災4年被災地で何が」

→提起された問題= 「頑張り疲れ」

求められる支援とは PTSD のような心理臨床レベルではなく、より包括的なレベルのものである

なぜ頑張るのか? = この地で頑張るため=逃げられないから ⇔ 逃げられるのは

(住民・教員等の専門職) (ボランティア・国・国民)

*住民: 賃金・所得の低さからの貧困を、これまではコミュニティが補っていた

*教員等の専門職: 今後、どう頑張り疲れ (燃え尽き等の危険) しないようにするか?

*逃げられる人を「逃がさない」ためには?

クローズアップ現代の視聴率: 「預金が消えていく」等、このところ10%前後で推移
(ビデオリサーチの報告より) 一方、被災に関するテーマは8%ほど

自助努力で何とかなること ⇔ 自助努力では何ともならないこと

→個人が保険等でカバー

→どんな対応をしたらよいのか?

税金・政治の問題=全国民を逃がさない「言葉」が必要

*我妻先生の高校でのSV経験より…ある教員: 「でも先生はいつかは来なくなるんでしょ?」

⇒サバティカルの期間中、引き継ぎ可能性のあるスーパーヴァイザー (荻間澤氏) を紹介

☆バトンをつなぐことも「逃げない」こと (石隈会長)

今後…基本的な支援の必要性としては、政治的な側面から考えざるを得ないが、しかし…

被災地から考え直す：【原点に】やれるところをやれる人がやれるだけ、継続的に行っていく

(3) 現職の教員に対する大学院での防災教育に関する授業の報告(藤岡氏) ※資料 11 参照

学校心理士の大学院での授業で防災教育を取り上げてきた(受講者の中に被災地出身の教員)

⇒西日本に勤務する 5 名の教員それぞれが、東日本大震災に係る映像資料や文書を通して考えたことを提出(※取扱い注意の資料であるが、ぜひ参照して欲しい)

Ⅲ. まとめ

1. 今後の活動に向けてのさまざまな提案：7つの提案と1つの留意点

①提案(大野氏)：SV も含め、被災地での様々な研修実施

2015 年 10 月福島大学で実施⇒被災県福島からの問題提起に専門性・倫理性を持って応える

「復興」「支援」では捉えられないもの

☆「言葉を選ぶ作業」が求められている！

②提案(氏家氏)：被災県での「聞かされる」だけの研修はやめた方が良い

市内の 7 割水没地区で子どもの心の応急ケアに関する研修の実施

※資料 12 参照

⇒なぜ 4 年後の今、このようなテーマで研修を実施するのか？その意義に疑問！

今必要なのは、集団 SV の視点(○「今、何に困っているのか？」 ×新しい知見)

③提案(西山氏)：担うべき専門性を持つ人(教師、学校心理士)に対し、教育プログラム(養成段階)

を通して支援する必要がある。少なくとも知っておく必要があることの整理の必要性。

☆Educational First Aid のような！(石隈氏)

⇒教師教育における PFA のようなものができるのでは？)

背景…現実に担っている人＝頑張る、とにかく前進する、取り組むことに一直線

⇒発想の転換の余裕ない。その結果、傷つき・疲弊。

④提案(石隈氏)：緑の小冊子+この 4 年間の活動で学んだことを 3~4 点加え、数ページ追加する

(これまでの年報 + ISPA での発表 + 小冊子)

テーマ：心理教育・教師教育・予防教育・危機意識の継続・頑張り疲れ…等

背景…「学校でできる」ことの意義

・教育だけで全部はできないが、0~18 歳まで貧富の差はなく通う場所

・被災地で真っ先に機能しだすのは学校。家庭で問題を抱えていても、学校が安定していることの持つ役割は大きい(我妻氏)

⑤提案(氏家氏)：小冊子に追加を希望する内容として、「大丈夫」を発信することの大切さ

携帯や電話以外の手段でも、SNS や HP を通じて発信する

⇒2, 3 次災害や心理的負担の軽減

⑥提案(瀧野氏)：各県で既に実施されている防災教育についての情報収集と地域に合わせた支援

⇒小冊子の巻末に、各地の情報(例：Web の URL, 等)を 2~3 行で紹介したものを

をリスト化する

背景…各県で行っている工夫

【高知県】南海トラフに備え…全教員に加除式のファイルを配布（※HP から DL 可能）。

- ・内 容：防災教育，心のケア，避難所運営，等
- ・ポイント：転勤してもファイルを携帯し，新務校の特徴に合せて内容を入れ替える
- ・特別活動の時間を使い，年間に 4 時間の防災教育の実施
⇒何をしたのかの報告が必要

※ 同様に，静岡県を初めとして各県で様々な取組を行っていると考えられる

⇒情報を集約し把握することで，各地の特徴に Fit する知見の提供が可能となる

【和歌山県】教科の時間に防災教育を実施できるようにしている

※学校において教科や特別活動以外の時間でソーシャルサポート等に費やせる時間は，ほとんどない（教育特区にならないと，新しいカリキュラムの開設は不可能）

【群馬大学】HP で，防災教育を各教科でどのように取り入れられるかを紹介している

⑦提案（西山氏，石隈氏）：各支部に対し，簡単なアンケートを実施

⇒県や学校での実践例や実践に関する情報を収集し，リスト化

⑧留意点（大野氏）：行政の役割…枠組みや形式の提示

それを現場でどのように実践していくのか，その倫理・責任・危機の共有と継続が重要 ⇒そのための心理的基盤の構築が不可欠

2. 今後の活動計画：「東日本大震災 子ども・学校支援チーム」の今後の予定

（1）活動内容について

会議開催 + 被災地での支援（研修会開催，等） + 小冊子の発行 + HP を媒介とした情報の発信

（2）会議の日程について

今後も継続予定（2 回開催）

- | | |
|---|--|
| ┌ | 次 回：日時…2015 年 8 月 7 日 16：00～18：00 ※学校心理士会札幌大会前日の幹事会后 |
| | 場所…札幌ガーデンパレス |
| └ | 次々回：日時…3 月 12 日 午後～夕方 ※時間は未定 |
| | 場所…学校心理士認定運営機構事務局 |

（3）被災地での支援

被災地に赴き，現地での提案を受けて一緒に考える会を開催

支援チームから旅費等の支援 ⇒ 講師およびアドバイザーの先生

（4）小冊子の発行

担当者（敬称略）：西山・都丸

仕事内容…小冊子の目次づくりおよび各県へのアンケート原案づくり

（各県の情報を集約し，事務局を通して HP からその情報をリンク）

校 正（敬称略）：石隈・大野・瀧野

（5）HP を媒介とした情報の発信

風化せないため，情報を絶えず発信していこう

⇒学校心理士会の HP 上またはリンクにて（例：新聞記事の引用，ISPA での共同発表，等）

大学および個人の HP への掲載・リンクにて（例：これまでの活動や緑の冊子等，PDF にて紹介）

《巻末：資料名一覧》

- 資料 1：「第15回『東日本大震災 子ども・学校支援チーム』会議議事録」
- 資料 2：「2017 ISPA（国際学校心理学会）Japan の提案」
- 資料 3：「東北教育現場 小規模校住民が運営支援 被災地適性配置厳しく進む少子化」・
「東北 小学校の半数統廃合要検討」（河北新報，2015年3月1日）
- 資料 4：「ニュースの授業 津波に襲われた地域新聞『生きる あなたの分も』」
（河北新報・夕刊，2015年3月6日）
- 資料 5：「出番ですよ！間もなく国連防災世界会議⑨完 宮城学院女子大：高校生の関与促す」
（河北新報・夕刊，2015年3月13日）
- 資料 6：「東日本大震災4年 残された課題1 福島からの避難者 収入二極化 引け目と不安 背景に賠償事情の格差」（朝日新聞，2015年3月10日）
- 資料 7：「東日本大震災4年 残された課題2 液状化対策 家は個人負担 未知には期限 『傾き』の話避ける住民」（朝日新聞，2015年3月11日）
- 資料 8：「東日本大震災4年 残された課題3 風評被害 『茨城産』買ったとき今も 安全の追及 発信さらに」（朝日新聞，2015年3月12日）
- 資料 9：「東日本大震災4年 残された課題4 漁業 入れない福島沖の漁場 漁獲高減少 賠償金頼み」（朝日新聞，2015年3月13日）
- 資料 10：講演会ポスター「原子力災害の心理的影響を考える国際セミナー―チェルノブイリ事故の教訓を学ぶ―」（河北新報，2015年2月125日）
- 資料 11：大学院授業資料「『学校心理学特論』を受講して新たに発見したこと，興味を持ったこと」
- 資料 12：「大規模災害時 子どもの心 応急ケアを 国際 NGO が普及活動 東松島で研修会 傾聴に重き多様な支援」（河北新報，2015年2月25日）
- 資料 13：「子ども新聞 減災は自分の行動から 宮城県女川町『とっさに考える』力を付けるカードゲーム」
（河北新報，2015年2月15日）
- 資料 14：千葉大学大学院医学研究院附属子どもの心の発達研究センター（2015）.「大規模災害後の子どものメンタルヘルスサポート報告書」